

日本国特許庁
JAPAN PATENT OFFICE

19.02.03

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office

出願年月日
Date of Application:

2002年 1月 21日

REC'D 24 APR 2003

WIPO PCT

出願番号
Application Number:

特願 2002-012143

[ST.10/C]:

[JP 2002-012143]

出願人
Applicant(s):

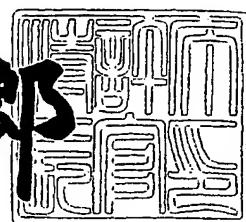
松下電工株式会社

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2003年 4月 1日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

太田 信一郎



出証番号 出証特 2003-3022207

【書類名】 特許願
【整理番号】 02P00398
【提出日】 平成14年 1月21日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 A61M 35/00
【発明の名称】 超音波経皮浸透装置
【請求項の数】 17
【発明者】
【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株式会社内
【氏名】 松村 祐子
【発明者】
【住所又は居所】 大阪府門真市大字門真1048番地松下電工株式会社内
【氏名】 佐藤 安広
【特許出願人】
【識別番号】 000005832
【氏名又は名称】 松下電工株式会社
【代理人】
【識別番号】 100087767
【弁理士】
【氏名又は名称】 西川 恵清
【電話番号】 06-6345-7777
【選任した代理人】
【識別番号】 100085604
【弁理士】
【氏名又は名称】 森 厚夫
【手数料の表示】
【予納台帳番号】 053420
【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1
【物件名】 図面 1
【物件名】 要約書 1
【包括委任状番号】 9004844
【フルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 超音波経皮浸透装置

【特許請求の範囲】

【請求項1】 有効成分を含んだ剤を経皮により生体に浸透させるにあたって、皮膚角質層の細胞間脂質を緩くするために超音波の振動を経皮により生体に浸透させる超音波経皮浸透装置において、周波数が0.5MHz以上の超音波を発生して皮膚表面に照射するための制御部と照射部を備えて成ることを特徴とする超音波経皮浸透装置。

【請求項2】 剤と同時に使用する超音波を発生することを特徴とする請求項1に記載の超音波経皮浸透装置。

【請求項3】 剤を使用した後に照射する超音波を発生することを特徴とする請求項1に記載の超音波経皮浸透装置。

【請求項4】 剤を使用する前に照射する超音波を発生することを特徴とする請求項1に記載の超音波経皮浸透装置。

【請求項5】 剤と同時に使用する超音波の発生と、剤を使用した後に照射する超音波の発生と、剤を使用する前に照射する超音波の発生とを2つ以上を組み合わせることを特徴とする請求項1に記載の超音波経皮浸透装置。

【請求項6】 超音波の照射条件である周波数、照射パワー、出力のオンとオフの間隔、照射時間のうちの少なくとも一つを制御部により制御して成ることを特徴とする請求項1乃至5のいずれかに記載の超音波経皮浸透装置。

【請求項7】 剤を浸透させる部位の深度を検知するための検知部を有し、検知部により検知された深度に剤を浸透させるための照射条件を制御部により制御して成ることを特徴とする請求項1乃至6のいずれかに記載の超音波経皮浸透装置。

【請求項8】 有効成分として美白成分を含む剤を浸透させるにあたって、超音波の周波数を3~5MHzに制御部で制御して成ることを特徴とする請求項1乃至7のいずれかに記載の超音波経皮浸透装置。

【請求項9】 美白成分として、ビタミンC、ビタミンC誘導体、コウジ酸、グルコシド、グルタチオン、キウイエキス、エイジツエキス、アルブチン、ア

セロラエキスから選ばれる少なくとも一つを用い、剤型をゲルタイプ、ローションタイプ、リキッドタイプ、含浸タイプから選ばれる少なくとも一つを用いて成ることを特徴とする請求項8に記載の超音波経皮浸透装置。

【請求項10】 鏡を改善するための有効成分として、ビタミンA、ビタミンA酸誘導体、レチノール、グルタチオン、 α -ヒドロキシ酸、細胞賦活剤から選ばれる少なくとも一つを用いて成ることを特徴とする請求項1乃至7のいずれかに記載の超音波経皮浸透装置。

【請求項11】 脂肪を燃焼させるための有効成分として、ビタミンB群、カプサイシン、カフェインから選ばれる少なくとも一つを用い、この有効成分を含んだ剤を脂肪組織や筋肉層へ浸透させるために、制御部により超音波の周波数を0.7MHz以上に制御して成ることを特徴とする請求項1乃至7のいずれかに記載の超音波経皮浸透装置。

【請求項12】 水虫を改善するための剤として、角質層深部に存在する白癬菌に対して有効なチオカルバミン酸系剤、イミダゾール系剤、アリルアミン系剤、アモロルフィン系剤、ウンデシレン酸及びその誘導体、抗真菌剤、抗白癬剤の少なくとも一つを用いて成ることを特徴とする請求項1乃至7のいずれかに記載の超音波経皮浸透装置。

【請求項13】 周波数が異なる2つ以上の超音波を発生するための制御部と照射部を備えて成ることを特徴とする請求項1乃至12のいずれかに記載の超音波経皮浸透装置。

【請求項14】 皮膚の深部に作用させるための超音波として1MHz程度の周波数の超音波を発生すると共に剤を生体に浸透させるための超音波として2MHz以上の周波数の超音波を発生し、これらの超音波を組み合わせて皮膚表面に照射するための制御部と照射部を備えて成ることを特徴とする請求項1乃至13のいずれかに記載の超音波経皮浸透装置。

【請求項15】 剤の浸透効果を高めるための物理刺激機能、使用者に対する快適感を高めるための物理刺激機能、別の作用を加えるための物理刺激機能のうち、少なくとも一つ以上を備えて成ることを特徴とする請求項1乃至14のいずれかに記載の超音波経皮浸透装置。

【請求項16】 剤として、化粧品、薬用化粧品、医薬品、医薬部外品、水溶性あるいは脂溶性で流動性を有するものから選ばれる少なくとも一つを用いて成ることを特徴とする請求項1乃至15のいずれかに記載の超音波経皮浸透装置。

【請求項17】 剤を基材に含浸して成ることを特徴とする請求項1乃至16のいずれかに記載の超音波経皮浸透装置。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、超音波振動を用いて経皮により剤を生体の部位に局所的に浸透させるための超音波経皮浸透装置に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

従来、経皮的に剤を浸透させ、剤に含有されている有効成分を皮膚や循環器系に作用させる技術として発達してきたのがDDS（経皮的薬物送達）であり、従来から電気で浸透させるイオントフォレーシスは薬剤投与の方法としてかなりの発達を遂げている。また、超音波振動を用いた技術も徐々に開発されており、特開昭52-115591号公報に記載されているように、ヘルペスの治療に対して1MHzの超音波を照射して薬剤を皮膚に浸透させるものや、特許第2710281号公報に記載されているように、超音波出力を制御し、剤を循環器系に浸透させるものなどがある。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

上記の特開昭52-115591号公報に記載の方法では、皮膚病変に対する剤の浸透効果を狙い、1MHzで1W/cm²の超音波を用いて薬剤を浸透させているが、皮膚や脂肪等の目的の部位への超音波の作用と超音波の特性とを併せて考えると、上記の超音波の照射条件が適しているとは言えない。超音波の特性として、周波数が高いほど表層への作用が高くなるので、1~2mm程度の厚みの皮膚に対しては、周波数が高い方が剤の浸透がより効果的であると言える。

【0004】

また、特許第2710281号公報に記載の方法では、薬剤を浸透させる目的の部位が循環器系であり、剤をより効果的に浸透させる超音波を制御しているが、この公報に記載の発明の目的はあくまでも循環器系への薬剤の浸透であり、経由地点である皮膚への作用については言及していない。

【0005】

さらに、上記のいずれの公報にも超音波の照射と、剤の皮膚への塗布とのタイミングについては言及していないが、本発明者らが新たに見出した、超音波の照射後も超音波の浸透効果が継続する事実を考慮すると、必ずしも、超音波の照射と剤の皮膚への塗布とを同時に行わなくてもよいと言える。

【0006】

本発明は上記の点に鑑みてなされたものであり、皮膚及び脂肪組織や筋肉へ剤を安全に効果的に浸透させることができる超音波経皮浸透装置を提供することを目的とするものである。

【0007】

【課題を解決するための手段】

本発明の請求項1に係る超音波経皮浸透装置Aは、有効成分を含んだ剤1を経皮により生体2に浸透させるにあたって、皮膚角質層の細胞間脂質を緩くするために超音波の振動を経皮により生体2に浸透させる超音波経皮浸透装置において、周波数が0.5MHz以上の超音波を発生して皮膚表面2aに照射するための制御部3と照射部4を備えて成ることを特徴とするものである。

【0008】

本発明の請求項2に係る超音波経皮浸透装置Aは、請求項1に加えて、剤1と同時に使用する超音波を発生することを特徴とするものである。

【0009】

本発明の請求項3に係る超音波経皮浸透装置Aは、請求項1に加えて、剤1を使用した後に照射する超音波を発生することを特徴とするものである。

【0010】

本発明の請求項4に係る超音波経皮浸透装置Aは、請求項1に加えて、剤1を

使用する前に照射する超音波を発生することを特徴とするものである。

【0011】

本発明の請求項5に係る超音波経皮浸透装置Aは、請求項1に加えて、剤1と同時に使用する超音波の発生と、剤1を使用した後に照射する超音波の発生と、剤1を使用する前に照射する超音波の発生とを2つ以上を組み合わせることを特徴とするものである。

【0012】

本発明の請求項6に係る超音波経皮浸透装置Aは、請求項1乃至5のいずれかに加えて、超音波の照射条件である周波数、照射パワー、出力のオンとオフの間隔、照射時間のうちの少なくとも一つを制御部3により制御して成ることを特徴とするものである。

【0013】

本発明の請求項7に係る超音波経皮浸透装置Aは、請求項1乃至6のいずれかに加えて、剤1を浸透させる部位の深度を検知するための検知部5を有し、検知部5により検知された深度に剤1を浸透させるための照射条件を制御部3により制御して成ることを特徴とするものである。

【0014】

本発明の請求項8に係る超音波経皮浸透装置Aは、請求項1乃至7のいずれかに加えて、有効成分として美白成分を含む剤1を浸透させるにあたって、超音波の周波数を3～5MHzに制御部3で制御して成ることを特徴とするものである。

【0015】

本発明の請求項9に係る超音波経皮浸透装置Aは、請求項8に加えて、美白成分として、ビタミンC、ビタミンC誘導体、コウジ酸、グルコシド、グルタチオン、キウイエキス、エイジツエキス、アルブチン、アセロラエキスから選ばれる少なくとも一つを用い、剤型としてゲルタイプ、ローションタイプ、リキッドタイプ、含浸タイプから選ばれる少なくとも一つを用いて成ることを特徴とするものである。

【0016】

本発明の請求項10に係る超音波経皮浸透装置Aは、請求項1乃至7のいずれかに加えて、鍼を改善するための有効成分として、ビタミンA、ビタミンA酸誘導体、レチノール、グルタチオン、 α -ヒドロキシ酸、細胞賦活剤から選ばれる少なくとも一つを用いて成ることを特徴とするものである。

【0017】

本発明の請求項11に係る超音波経皮浸透装置Aは、請求項1乃至7のいずれかに加えて、脂肪を燃焼させるための有効成分として、ビタミンB群、カプサイシン、カフェインから選ばれる少なくとも一つを用い、この有効成分を含んだ剤1を脂肪組織や筋肉層へ浸透させるために、制御部3により超音波の周波数を0.7MHz以上に制御して成ることを特徴とするものである。

【0018】

本発明の請求項12に係る超音波経皮浸透装置Aは、請求項1乃至7のいずれかに加えて、水虫を改善するための剤1として、角質層深部に存在する白癬菌に對して有効なチオカルバミン酸系剤、イミダゾール系剤、アリルアミン系剤、アモロルフィン系剤、ウンデシレン酸及びその誘導体、抗真菌剤、抗白癬剤の少なくとも一つを用いて成ることを特徴とするものである。

【0019】

本発明の請求項13に係る超音波経皮浸透装置Aは、請求項1乃至12のいずれかに加えて、周波数が異なる2つ以上の超音波を発生するための制御部3と照射部4を備えて成ることを特徴とするものである。

【0020】

本発明の請求項14に係る超音波経皮浸透装置Aは、請求項1乃至13のいずれかに加えて、皮膚の深部に作用させるための超音波として1MHz程度の周波数の超音波を発生すると共に剤1を生体2に浸透させるための超音波として2MHz以上の周波数の超音波を発生し、これらの超音波を組み合わせて皮膚表面2aに照射するための制御部3と照射部4を備えて成ることを特徴とするものである。

【0021】

本発明の請求項15に係る超音波経皮浸透装置Aは、請求項1乃至13のいず

れかに加えて、剤1の浸透効果を高めるための物理刺激機能、使用者に対する快適感を高めるための物理刺激機能、別の作用を加えるための物理刺激機能のうち、少なくとも一つ以上を備えて成ることを特徴とするものである。

【0022】

本発明の請求項16に係る超音波経皮浸透装置Aは、請求項1乃至15のいずれかに加えて、剤1として、化粧品、薬用化粧品、医薬品、医薬部外品、水溶性あるいは脂溶性で流動性を有するものから選ばれる少なくとも一つを用いて成ることを特徴とするものである。

【0023】

本発明の請求項17に係る超音波経皮浸透装置Aは、請求項1乃至16のいずれかに加えて、剤1を基材に含浸して成ることを特徴とするものである。

【0024】

【発明の実施の形態】

以下、本発明の実施の形態を説明する。

【0025】

本発明の超音波経皮浸透装置Aは、超音波を発生して生体2の皮膚表面2aに照射することによって、超音波の振動を経皮により生体2の目的の部位に局所的に浸透させ、超音波の振動により皮膚角質層の細胞間脂質を緩くし（細胞間の流動性が高くなった状態）、生体2の目的の部位への剤1や有効成分の浸透性を高める（剤1や有効成分の浸透量を多くする）ようにしたものである。また、本発明の超音波経皮浸透装置Aは、剤1が生体2の目的の部位に浸透するために適した照射条件の超音波を発生させて皮膚表面2aに照射することによって、生体2の目的の部位への剤1や有効成分の浸透性をさらに高めるようにしたものである。

【0026】

超音波は周波数により生体2への浸透能力が異なるものであり、周波数が高いと、生体2の浅部（皮膚の近傍）でエネルギーが消費されて生体2の深部へはエネルギーがあまり浸透しないが、逆に、周波数が低いと、生体2の浅部でのエネルギー消費は少なく、超音波のエネルギーは生体2の深部に浸透する。そして、

本発明の超音波経皮浸透装置Aは超音波のこの特性を利用して、生体2の目的の部位に局所的に剤1を効果的に浸透させるものである。

【0027】

図1に本発明の超音波経皮浸透装置Aの一例を示す。この超音波経皮浸透装置Aではケーシング10の内部に制御部3と照射部4とを備えて形成されている。照射部4は皮膚表面2aに照射する超音波を発生するための超音波振動子あるいはこれを備えることにより形成されている。また、制御部3は照射部4の超音波振動子から照射される超音波の照射条件を制御するための電気回路を備えて形成されるものであり、この制御部3により超音波の照射条件である周波数、照射パワー、出力のオンとオフの間隔（デューティー比）、照射時間のうちの少なくとも一つを制御するものである。尚、制御部3による照射条件の制御は自動であってもよいし手動であってもよい。そして、この超音波経皮浸透装置Aの照射部4を生体2の皮膚表面2aに近接させることにより、照射部4の超音波振動子から皮膚表面2aに向かって超音波が照射され、この後、超音波が経皮により生体2に浸透していくものである。尚、本発明では超音波を浸透させる生体2の目的の部位の表面側にある皮膚表面2aに超音波を照射するのが好ましい。また、照射部4による照射位置の調整や照射の開始等は自動でも手動でも構わない。

【0028】

本発明の超音波経皮浸透装置Aから超音波を照射するにあたって、その照射条件は目的とする効果によって適宜変更可能であるが、美白効果を狙いとする場合は、生体2の浅部である表皮基底層のメラミンが有効成分を作用させるターゲットとなるので、皮膚表面2aから浅い部位であり、従って、高い周波数（3～5MHz）の超音波を用いて剤1を浸透させると効果的である。また、皺の改善を狙いとする場合は、皮膚真皮が有効成分を作用させるターゲットとなるので、中程度（1～3MHz）の周波数を用いて剤1を浸透させると効果的である。また、痩身効果を狙いとする場合は、生体2の深部である脂肪組織や筋肉層が有効成分を作用させるターゲットとなるので、低い周波数（0.5～2MHz、好ましくは0.7～1MHz）を用いて剤1を深部にまで浸透させると効果的である。このように剤1を浸透させたい目的の部位の深さに適した超音波の照射条件を用

いることが、効果的に剤1を浸透させるために必要である。従って、本発明の超音波経皮浸透装置Aは周波数が0.5～5MHzの超音波が発生可能であり、またこの範囲内で超音波の周波数が適宜設定可能に形成されている。

【0029】

上記のように効果的に剤1を浸透させるために超音波の周波数の条件について述べたが、超音波の照射パワーについても考慮する必要がある。上記のように、超音波の周波数が高いと浅部でエネルギーが消費されるために、その部分での発熱量も大きくなる。また、超音波の照射パワーが大きいと発熱量も大きくなるので、火傷等の皮膚障害の発生が懸念される。そこで、皮膚障害が発生しないような照射パワーを用いることが重要となってくる。剤1や有効成分の浸透効果が高く、且つ皮膚障害が発生しないようにするために、超音波の照射条件は上記の周波数の範囲内で皮膚表面2aに対して $2\text{W}/\text{cm}^2$ 以下にするのが好ましく、より好ましくは $0.7\text{W}/\text{cm}^2$ 以下にする。これにより、超音波のエネルギーが皮膚に集中するがなくなつて安全で効果的に剤1や有効成分を浸透させることができるものである。尚、剤1の浸透性を考慮して皮膚表面2aに対する照射パワーは $0.2\text{W}/\text{cm}^2$ 以上にするものである。

【0030】

本発明を用いて経皮的に浸透させる剤1は有効成分を含むものであつて、化粧品（化粧水、乳液、エッセンス、クリーム、ジェル状化粧品等）、薬用化粧品、医薬品、医薬部外品として調製されたもの、及び適宜調製した水溶性あるいは脂溶性で流動性を高くした組成物から選ばれる少なくとも一つを用いることができる。また、剤1の性状である剤型としてはゲルタイプ、ローションタイプ、リキッドタイプ、含浸タイプから選ばれる少なくとも一つを用いることができる。

【0031】

剤1に含有する有効成分は目的とする効果により適宜選択することができる。美白効果を得るためにには剤1として美白剤を用いるものであり、この美白剤はビタミンC、ビタミンC誘導体、コウジ酸、グルコシド、グルタチオン、キウイエキス、エイジツエキス、アルブチン、アセロラエキスから選ばれる少なくとも一つを有効成分（美白成分）として含有するものである。また、皺の改善効果を得

るためには有効成分として、ビタミンA、ビタミンA酸（レチノイン酸）誘導体、レチノール、グルタチオン、 α -ヒドロキシ酸、細胞賦活剤から選ばれる少なくとも一つを含有する剤1を用いることができる。また、痩身効果を得るために脂肪燃焼に効果的な有効成分、すなわち、ビタミンB群、カプサイシン、カフェインから選ばれる少なくとも一つを含有する剤1を用いることができる。さらに、水虫の治療改善効果を得るために剤1として、角質層深部に存在する白癬菌に対して有効なチオカルバミン酸系剤、イミダゾール系剤、アリルアミン系剤、アモロルフィン系剤、ウンデシレン酸及びその誘導体、抗真菌剤、抗白癬剤の少なくとも一つを用いることができる。

【0032】

そして、上記の超音波経皮浸透装置Aを用いて生体2に超音波を照射すると共に剤1を生体2の目的とする部位に浸透させるにあたっては、3つの方法がある。1つ目の方法は剤1と超音波とを同時に生体2に使用する方法である。これは図1に示すように、剤1を皮膚表面2aに塗布するなどして使用し、この剤1を皮膚表面2aに残したまま剤1を介して生体2の皮膚表面2aに超音波を照射する方法である。この場合、超音波を生体2に照射しながら剤1を経皮により浸透させるので、超音波を用いない場合に比べて剤1の浸透効果が高いものである。

【0033】

2つ目の方法は剤1を使用した後に超音波を使用する方法である。これは図2(a)に示すように、剤1を皮膚表面2aに塗布するなどして使用した後、図2(b)に示すように、この剤1を放置したり取り除いたりして皮膚表面2aにほとんど残らないようにし、この後、図2(c)に示すように、生体2の皮膚表面2aに超音波を照射する方法である。この場合、剤1が皮膚表面2aからほとんど無くなった後、数分(約5~10分)経過してから超音波を照射することになるが、これでも皮膚表面2a上に残存している剤1及びその有効成分が経皮的に浸透するために、超音波を用いない場合に比べて剤1の浸透効果が高いものである。

【0034】

3つ目の方法は剤1を使用する前に超音波を使用する方法である。これは図3

(a) に示すように、生体2の皮膚表面2aに超音波を照射した後、図3 (b) に示すように、超音波経皮浸透装置A及び後述の超音波伝達媒体25を取り除き、次に、図3 (c) に示すように、剤1を皮膚表面2aに塗布するなどして使用する方法である。この場合、超音波を照射してから剤1を使用することになるが、超音波の照射により皮膚角質層の細胞間脂質が緩い状態が少なくとも30分間は継続するために、超音波の照射後30分以内に剤1を皮膚表面2aに塗布するなどして使用することによって、剤1及びその有効成分が経皮的に浸透し、超音波を用いない場合に比べて剤1の浸透効果が高いものである。

【0035】

上記の3つの方法はそのうち2つ以上的方法を組み合わせて順次繰り返し行うようにしてもよい。

【0036】

本発明の超音波経皮浸透装置Aを用いて超音波を皮膚表面2aに照射するにあたって、照射部4の外面あるいはケーシング10の外面を皮膚表面2aに直接接触させるようにしてもよいが、図2、3に示すように、照射部4と皮膚表面2aの間に超音波伝達媒体25を介在させるようにしてもよい。超音波伝達媒体25は照射部4で生じた超音波を皮膚表面2aに伝達するものであって、例えば、カルボキシメチルセルロース(CMC)を配合したジェル状の水溶液などを用いることができる。この超音波伝達媒体25は超音波の照射時において照射部4と皮膚表面2aの両方に密着するものであり、皮膚表面2aに塗布したりあるいは後述の基材に含浸させ、これを皮膚表面2aに貼り付けたりして、照射部4と皮膚表面2aの間に設けることができる。また、この超音波伝達媒体25に上記の有効成分を含有させて剤1として調製することができる。さらに、超音波伝達媒体25に上記の剤1を含有させて用いてもよい。

【0037】

また、剤1を生体2に使用する場合に皮膚表面2aに剤1を塗布するほかに、剤1を含浸させて保持させた基材を皮膚表面2aに貼り付けるようにしてもよい。基材としては不織布等の布や紙のような入手が容易なシート状物を用いることができる。このように剤1を含浸させて保持させた基材を皮膚表面2aに貼り付

けるようにすると、剤1を皮膚表面2aに密着させた状態を長時間に亘って維持することができて剤1の浸透効果を高くすることができるものであり、また、剤1が垂れ落ちたりすることなく取扱いが容易になるものである。

【0038】

図4には他の実施の形態を示す。この超音波経皮浸透装置Aは剤1を浸透させる部位の深度を検知するための検知部5を有するものであって、診断機としての超音波の特性も活かしたものである。この検知部5は生体2に超音波を照射すると共に生体2内からの超音波の反射を捕らえることによって、剤1を浸透したい部位の深度を測定して検知するものである。検知部5による検知結果は制御部3に送られ、ここで検知部5で検知された深度に適した超音波の照射条件が選択されるなどして決定される。そして、この制御部3で決定された照射条件に基づいて照射部4の超音波振動子からの超音波の照射が制御されるものである。

【0039】

また、この超音波経皮浸透装置Aには照射部4に二つの超音波振動子20、21が設けられている。この超音波振動子20、21は種類が異なるものであって、例えば、発生する超音波の周波数が異なっていたり出力のオンとオフの間隔が異なっていたりするものである。そして、目的や使用する部位あるいは照射条件などに応じて、超音波振動子20、21を各々個別に用いたり交互に用いたりすることができるものである。その他の構成及び使用方法は上記の実施の形態と同様である。尚、超音波振動子は2個に限らず、3個以上設けてもよく、これにより、生体2の2つ以上の部位に対して同時に超音波を照射したり、2つ以上の異なる条件の超音波を交互に照射したりすることができる。

【0040】

この実施の形態では検知部5の検知により剤1を浸透させたい部位の深度を正確に把握してその深度に適した超音波の照射条件を選択することができ、非常に効果的に剤1を目的の部位に浸透させることができるものである。

【0041】

また、本発明の超音波経皮浸透装置Aは周波数（周波数帯域）が異なる2つ以上の超音波を発生するための制御部3と照射部4を備えて形成することができる

。例えば、周波数が異なる2つの超音波を発生する場合、図4に示す超音波経皮浸透装置Aでは、超音波振動子20から発生して皮膚表面2aに照射する超音波の周波数と超音波振動子21から発生して皮膚表面2aに照射する超音波の周波数が異なるように制御部3で制御することができる。このように周波数が異なる2つの超音波を発生する場合、皮膚の深部に作用させるための超音波として比較的低い帯域の周波数である1MHz程度(0.5~2MHz)の周波数の超音波を一方の超音波振動子20から発生すると共に剤1を生体2に浸透させるための超音波として比較的高い帯域の周波数である2MHz以上の周波数の超音波を他方の超音波振動子20から発生し、これら2つの周波数の超音波を組み合わせて同時に皮膚表面2aに照射することができる。また、上記の超音波経皮浸透装置は、周波数が異なる2つ以上の超音波が照射することができるよう切替が可能であり、また、周波数が異なる2つ以上の超音波を交互あるいは順番に照射することができるものである。尚、剤1を生体2に浸透させるための比較的高い帯域の周波数の超音波は10MHz以下にすることができる。

【0042】

そして、周波数が異なる2つ以上の超音波を発生し、これら超音波を組み合わせて同時に皮膚表面2aに照射することによって、周波数が異なる2つ以上の超音波による生体2への異なる2つ以上の作用を組み合わせて(コンビネーションで)及ぼすことができ、剤1の生体2への浸透性を高めることができるものである。

【0043】

また、本発明において、剤1の生体2への浸透効果を高めるための物理刺激機能、使用者に対する快適感を高めるための物理刺激機能、別の作用を加えるための物理刺激機能のうち、少なくとも一つ以上を備えることができる。剤1の生体2への浸透効果を高めるための物理刺激機能としては、例えば、剤1を浸透させる生体2の目的の部位に温める刺激を与える機能であり、温水、温風、スチーム、赤外線、遠赤外線、高周波等を利用して生体2の目的の部位に温める刺激を与えるための熱発生具をケーシング10や照射部4に備えて超音波経皮浸透装置Aが形成されるものである。また、使用者に対する快適感を高めるための物理刺激

機能としては、例えば、剤1を浸透させる生体2の目的の部位にマッサージ刺激を与える機能であり、もむ、たたく、さする、圧迫及び開放の繰り返し等のマッサージ刺激を生体2の目的の部位に与えるマッサージ治具をケーシング10や照射部4に備えて超音波経皮浸透装置Aが形成されるものである。また、別の作用を加えるための物理刺激機能としては、例えば、剤1を浸透させる生体2の目的の部位において細胞を活性化させる刺激を与える機能であり、電気刺激や光刺激レーザー等を利用して細胞を活性化させる刺激を生体2の目的の部位に与えるための細胞活性化治具をケーシング10や照射部4に備えて超音波経皮浸透装置Aが形成されるものである。

【0044】

次に、本発明を用いた剤1の浸透方法について具体的に説明する。

(具体例1)

超音波経皮浸透装置Aとしては図1のものを用いた。剤1としては美白剤を用いた。この美白剤としてはビタミンC誘導体（リン酸アスコルビルマグネシウム塩）3%を含むカルボキシメチルセルロース（CMC）添加のジェル状水溶液を1cc（1cm³）用いた。尚、ビタミンC誘導体を含まないカルボキシメチルセルロース（CMC）添加のジェル状水溶液は超音波伝達媒体25である。

【0045】

そして、上記の美白剤を皮膚表面2aに塗布し、この後、この美白剤を介して超音波経皮浸透装置Aの照射部4から超音波を生体2の皮膚表面2aに照射することにより、剤1を皮膚（表皮基底層）に浸透させた。この時、超音波の照射条件は、周波数が5MHz、皮膚表面2aに対する照射パワーが0.35W/cm²、照射部4のプローブ面積（美白剤を介して照射部4が皮膚表面2aと接触する面積）が4.52cm²、超音波（パワー）の出力方法が連続出力（デューティー比が100%）、照射時間が5分間とした。

【0046】

上記の具体例1について、ビタミンCの浸透量（皮膚1g中のアスコルビン量）を測定した。また、比較のために、上記の具体例1において超音波を照射しなかったもの（コントロール1）についてもビタミンCの浸透量を測定した。結果

を図5に示す。

【0047】

図5から明らかなように、具体例1はコントロール1に比べて約5倍のビタミンCが浸透しており、超音波を使用した方が剤1及び有効成分の浸透効果が高いことが判る。

【0048】

(具体例2)

まず、図2に示すように、皮膚表面2aに上記と同様の超音波伝達媒体25を塗布し、この超音波伝達媒体25を介して上記の具体例1と同様の超音波経皮浸透装置Aを用いて超音波を皮膚表面2aに照射し、皮膚表面2aに作用させた。照射条件は具体例1と同様にした。次に、超音波の照射後に皮膚表面2aから超音波伝達媒体25を取り除き、30分間放置した。この後、超音波の照射を行った部分の皮膚表面2aに対して具体例1と同様の美白剤を塗布した。

【0049】

この具体例2について、美白剤の塗布後からのビタミンCの浸透量(皮膚1g中のアスコルビン量)を経時的に測定した。また、比較のために、上記の具体例2において超音波を照射しなかったもの(コントロール2)、及び超音波の照射後から1時間経過した後に美白剤を塗布したものについてもビタミンCの浸透量を経時的に測定した。結果を図6に示す。

【0050】

図6から明らかなように、具体例2は、コントロール2や超音波の照射後から1時間経過した後に美白剤を塗布したものに比べて、ビタミンCの累積浸透量が大きくなっている。具体例2はコントロール2や超音波の照射後から1時間経過した後に美白剤を塗布したものに比べて、ビタミンCが多く浸透しているものであり、超音波を使用した後30分間以内に皮膚表面2aに剤1を塗布したものが剤1及び有効成分の浸透効果が高いことが判る。

【0051】

(具体例3)

ビタミンC誘導体(リン酸アスコルビルマグネシウム塩)5%の化粧水(剤1)

) を顔面全体にコットンにて塗布した後、上記と同様の美白成分を含まないジェル状の超音波伝達媒体25を介して半顔のみに超音波を10分間照射した。この時の超音波の照射条件は、周波数が1MHz、皮膚表面2aに対する照射パワーが0.5W/cm²、照射部4のプローブ面積が4.52cm²、超音波(パワー)の出力方法が連続出力(デューティー比が100%)とした。

【0052】

このような作業をほぼ毎日施術し、2~3ヶ月後の結果を図7に示す。図7は剤1と超音波の両方を使用した半顔(剤+超音波)と、剤1のみを使用した半顔(剤のみ)とのシミの色の変化を比較したものであるが、剤1と超音波の両方を使用した半顔は剤1のみを使用した半顔よりもシミの色が明るく(白く)なって美白効果が高いものであった。すなわち、超音波の照射前に剤1を塗布しても、超音波による剤1の浸透効果が十分に高いことを示している。

【0053】

【発明の効果】

上記のように本発明の請求項1の発明は、有効成分を含んだ剤を経皮により生体に浸透させるにあたって、皮膚角質層の細胞間脂質を緩くするために超音波の振動を経皮により生体に浸透させる超音波経皮浸透装置において、周波数が0.5MHz以上の超音波を発生して皮膚表面に照射するための制御部と照射部を備えるので、超音波の皮膚角質層の細胞間脂質を緩くする性質と周波数による生体への作用の違いという二つの特性を活かして、剤を浸透させたい部位に効果的に剤を浸透させることができ、通常のように単に剤を皮膚に塗布する場合の何倍もの浸透性向上の効果を得ることができるものであり、しかも、皮膚表面に火傷等の皮膚障害が発生するのを防止して安全で効果的に生体に剤を浸透させができるものである。

【0054】

本発明の請求項2の発明は、剤と同時に使用する超音波を発生するので、通常のように単に剤を皮膚に塗布する場合の何倍もの浸透性向上の効果を得ができるものである。

【0055】

本発明の請求項3の発明は、剤を使用した後に照射する超音波を発生するので、浸透させたい剤を事前に皮膚表面に使用しておくことができ、通常のように単に剤を皮膚に塗布する場合の何倍もの浸透性向上の効果を得ることができるものである。

【0056】

本発明の請求項4の発明は、剤を使用する前に照射する超音波を発生するので、超音波の使用後に浸透させたい剤をパック状等にして使用するなどの工夫が可能であり、通常のように単に剤を皮膚に塗布する場合の何倍もの浸透性向上の効果を得ることができるものである。

【0057】

本発明の請求項5の発明は、剤と同時に使用する超音波の発生と、剤を使用した後に照射する超音波の発生と、剤を使用する前に照射する超音波の発生とを2つ以上を組み合わせるので、超音波や剤の使用のタイミングを自由に変更することができ、通常のように単に剤を皮膚に塗布する場合の何倍もの浸透性向上の効果を得ることができるものである。

【0058】

本発明の請求項6の発明は、超音波の照射条件である周波数、照射パワー、出力のオンとオフの間隔、照射時間のうちの少なくとも一つを制御部により制御するので、浸透させる部位や使用する剤に応じて最適な照射条件を得ることができ、安全で効果的に剤を浸透させることができるものである。

【0059】

本発明の請求項7の発明は、剤を浸透させる部位の深度を検知するための検知部を有し、検知部により検知された深度に剤を浸透させるための照射条件を制御部により制御するので、検知部により浸透させたい部位の深度に応じて正確に照射条件を制御することができ、所望の部位に剤を確実に浸透させることができるものである。

【0060】

本発明の請求項8の発明は、有効成分として美白成分を含む剤を浸透させるにあたって、超音波の周波数を3～5MHzに制御部で制御するので、剤を表皮の

基底層に安全に浸透させることができると共にこの基底層に存在するメラミンに効果的に剤を作用させることができ、高い美白効果を得ることができるものである。

【0061】

本発明の請求項9の発明は、美白成分として、ビタミンC、ビタミンC誘導体、コウジ酸、グルコシド、グルタチオン、キウイエキス、エイジツエキス、アルブチン、アセロラエキスから選ばれる少なくとも一つを用い、剤型としてゲルタイプ、ローションタイプ、リキッドタイプ、含浸タイプから選ばれる少なくとも一つを用いるので、容易に入手可能な剤により高い美白効果を得ることができるものである。

【0062】

本発明の請求項10の発明は、皺を改善するための有効成分として、ビタミンA、ビタミンA酸誘導体、レチノール、グルタチオン、 α -ヒドロキシ酸、細胞賦活剤から選ばれる少なくとも一つを用いるので、容易に入手可能な剤により高い皺改善効果を得ることができるものである。

【0063】

本発明の請求項11の発明は、脂肪を燃焼させるための有効成分として、ビタミンB群、カプサイシン、カフェインから選ばれる少なくとも一つを用い、この有効成分を含んだ剤を脂肪組織や筋肉層へ浸透させるために、制御部により超音波の周波数を0.7MHz以上に制御するので、効果的な脂肪燃焼を行うことができ、痩身効果を得ることができるものである。

【0064】

本発明の請求項12の発明は、水虫を改善するための剤として、角質層深部に存在する白癬菌に対して有効なチオカルバミン酸系剤、イミダゾール系剤、アリルアミン系剤、アモロルフィン系剤、ウンデシレン酸及びその誘導体、抗真菌剤、抗白癬剤の少なくとも一つを用いるので、容易に入手可能な剤により高い水虫改善効果を得ることができるものである。

【0065】

本発明の請求項13の発明は、周波数が異なる2つ以上の超音波を発生するた

めの制御部と照射部を備えるので、周波数が異なる2つ以上の超音波を発生して皮膚表面に照射することによって、これらの超音波により生体に異なる作用を及ぼすことができ、剤を浸透させたい部位により効果的に剤を浸透させることができるものである。

【0066】

本発明の請求項14の発明は、皮膚の深部に作用させるための超音波として1MHz程度の周波数の超音波を発生すると共に剤を生体に浸透させるための超音波として2MHz以上の周波数の超音波を発生し、これらの超音波を組み合わせて皮膚表面に照射するための制御部と照射部を備えるので、周波数が異なる2つ以上の超音波を発生して皮膚表面に照射することによって、これらの超音波により生体に異なる作用を及ぼすことができ、剤を浸透させたい部位により効果的に剤を浸透させることができるものである。

【0067】

本発明の請求項15の発明は、剤の浸透効果を高めるための物理刺激機能、使用者に対する快適感を高めるための物理刺激機能、別の作用を加えるための物理刺激機能のうち、少なくとも一つ以上を備えるので、剤の浸透効果を高めたり使用者の快適感を高めたりすることができ、使用感を向上させることができるものである。

【0068】

本発明の請求項16の発明は、剤として、化粧品、薬用化粧品、医薬品、医薬部外品、水溶性あるいは脂溶性で流動性を有するものから選ばれる少なくとも一つを用いるので、容易に入手可能で使用方法が簡便な剤を用いて各種改善効果を得ることができるものである。

【0069】

本発明の請求項17の発明は、剤を基材に含浸するので、剤を長期間安定して皮膚表面に作用させることができ、剤の浸透効果を向上させることができると共に、液状等の剤を取り扱いやすくすることができるものである。

【図面の簡単な説明】

【図1】

本発明の実施の形態の一例を示す概略図である。

【図2】

同上の本発明の使用方法の一例を示し、(a)～(c)は概略図である。

【図3】

同上の本発明の使用方法の他例を示し、(a)～(c)は概略図である。

【図4】

同上の他の実施の形態の一例を示す概略図である。

【図5】

同上の具体例1におけるビタミンCの浸透量の比較を示すグラフである。

【図6】

同上の具体例2における超音波照射後の剤の浸透効果の持続を示すグラフである。

【図7】

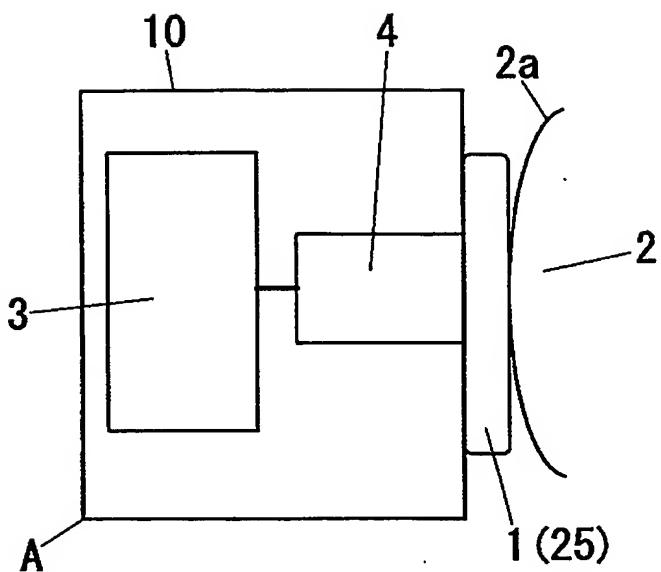
同上の具体例3におけるシミの色の変化の比較を示すグラフである。

【符号の説明】

- 1 剤
- 2 生体
- 2 a 皮膚表面
- 3 制御部
- 4 照射部
- 5 検知部
- A 超音波経皮浸透装置

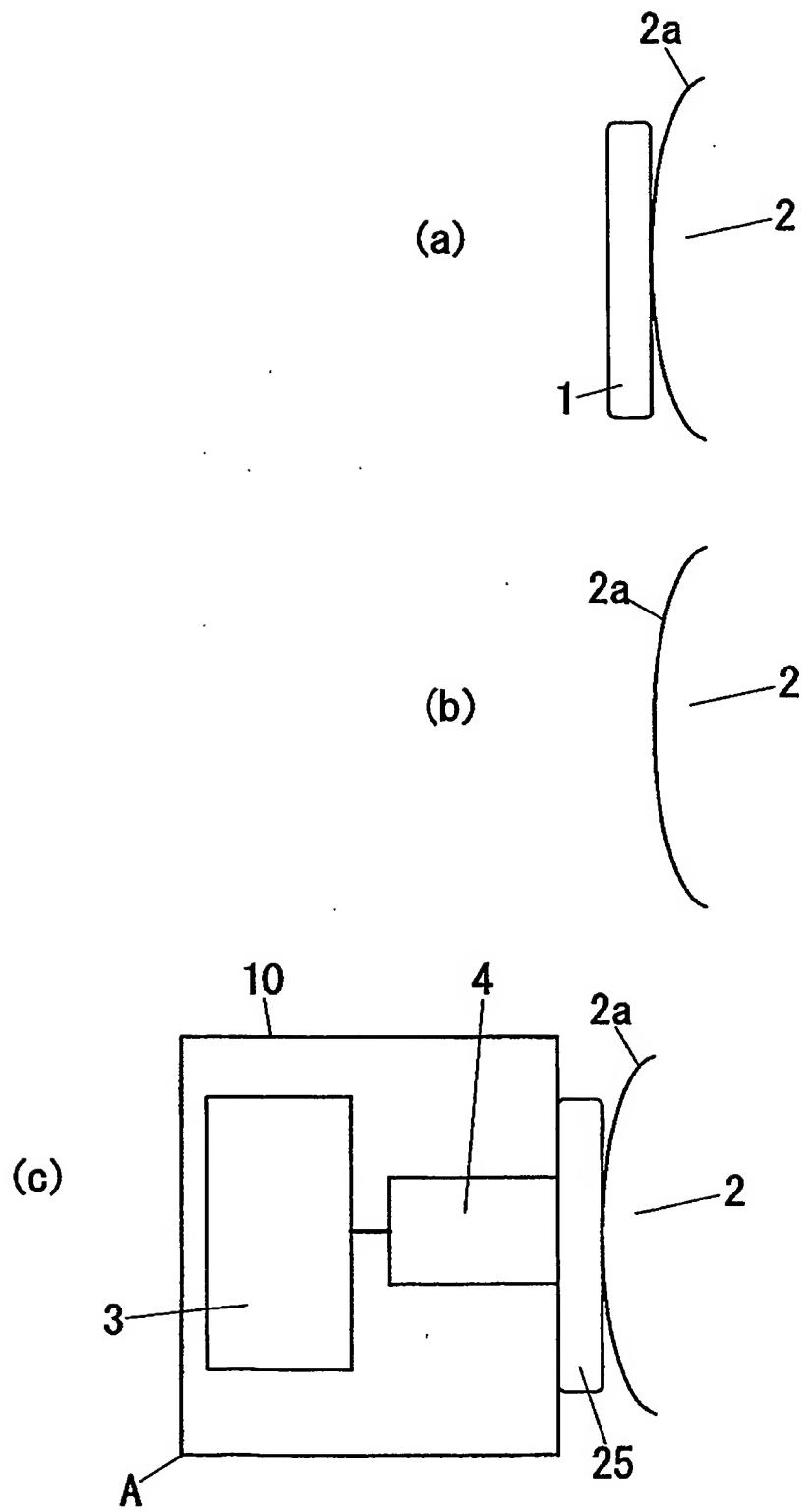
【書類名】 図面

【図1】

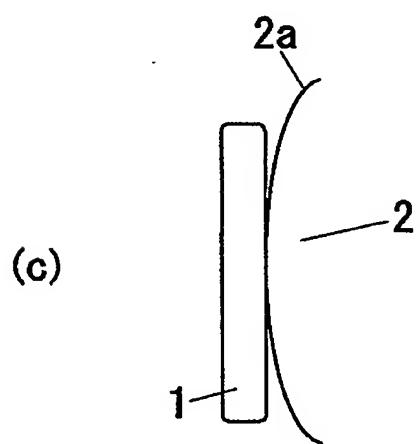
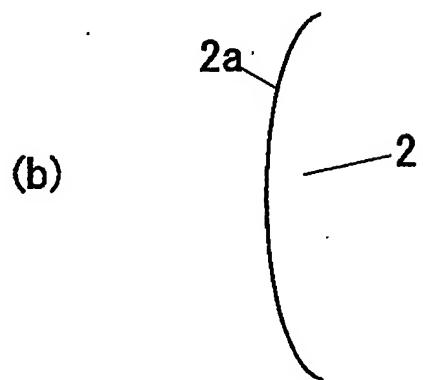
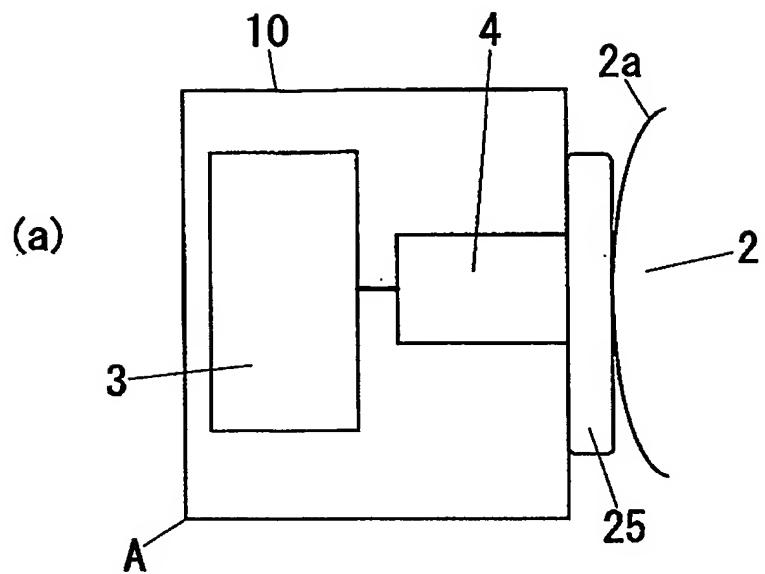


- 1…剤
- 2…生体
- 2a…皮膚表面
- 3…制御部
- 4…照射部
- A…超音波経皮浸透装置

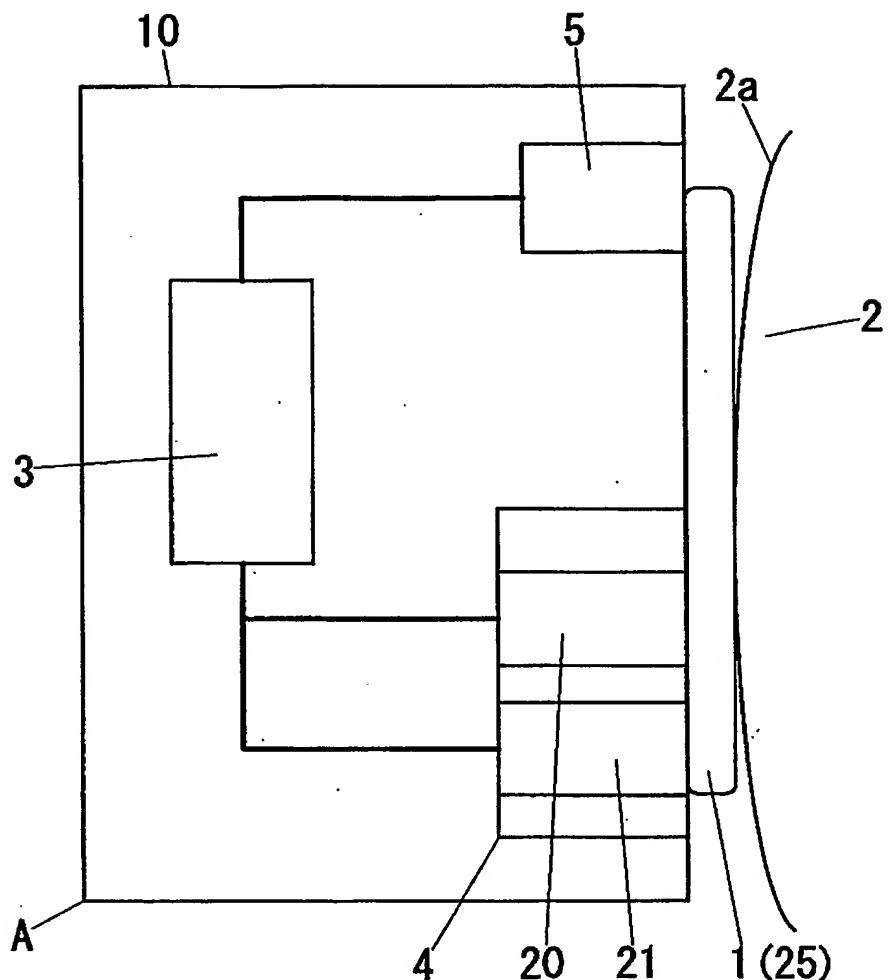
【図2】



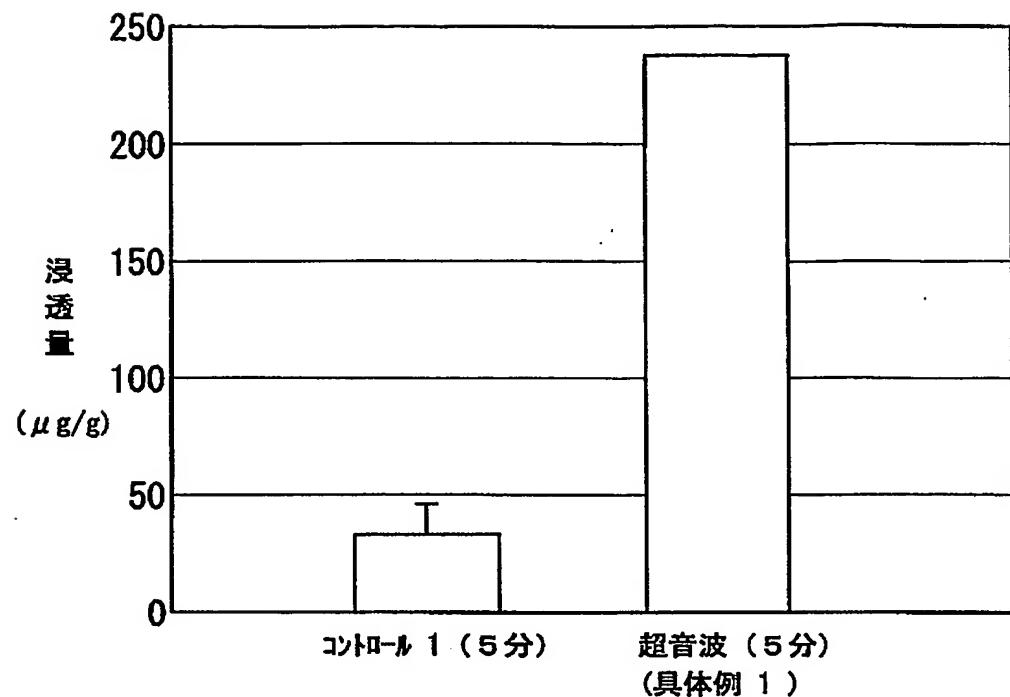
【図3】



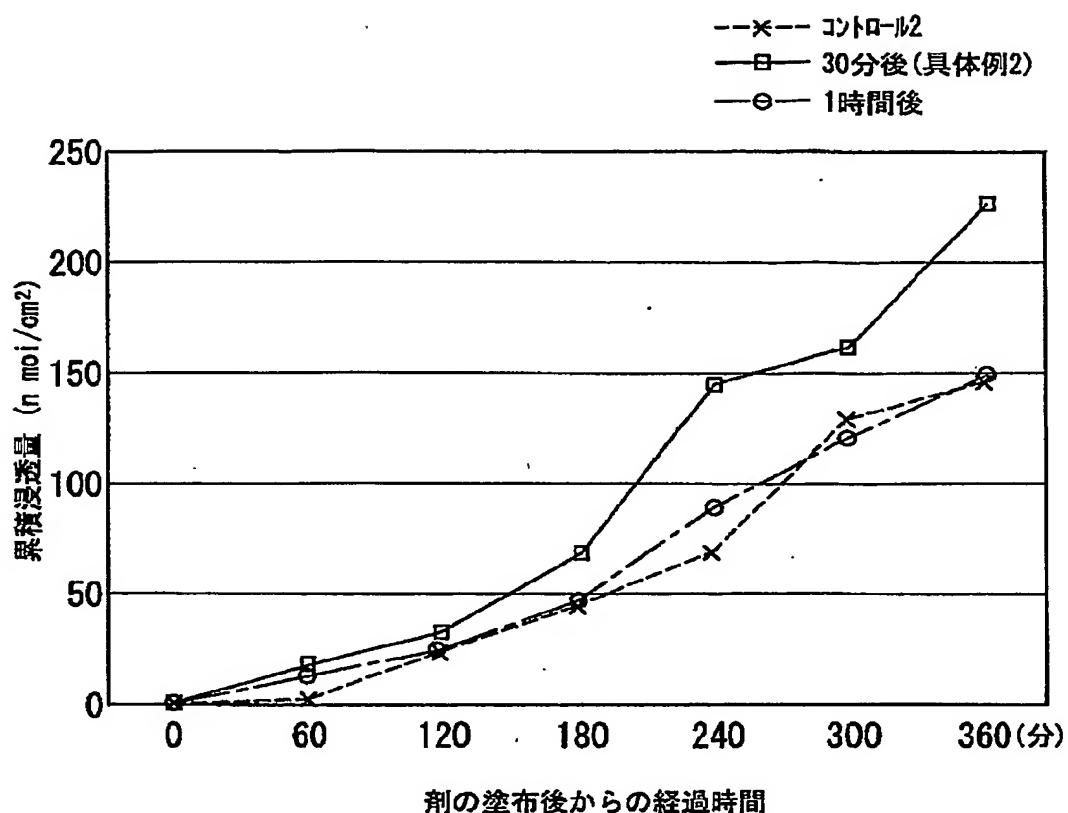
【図4】



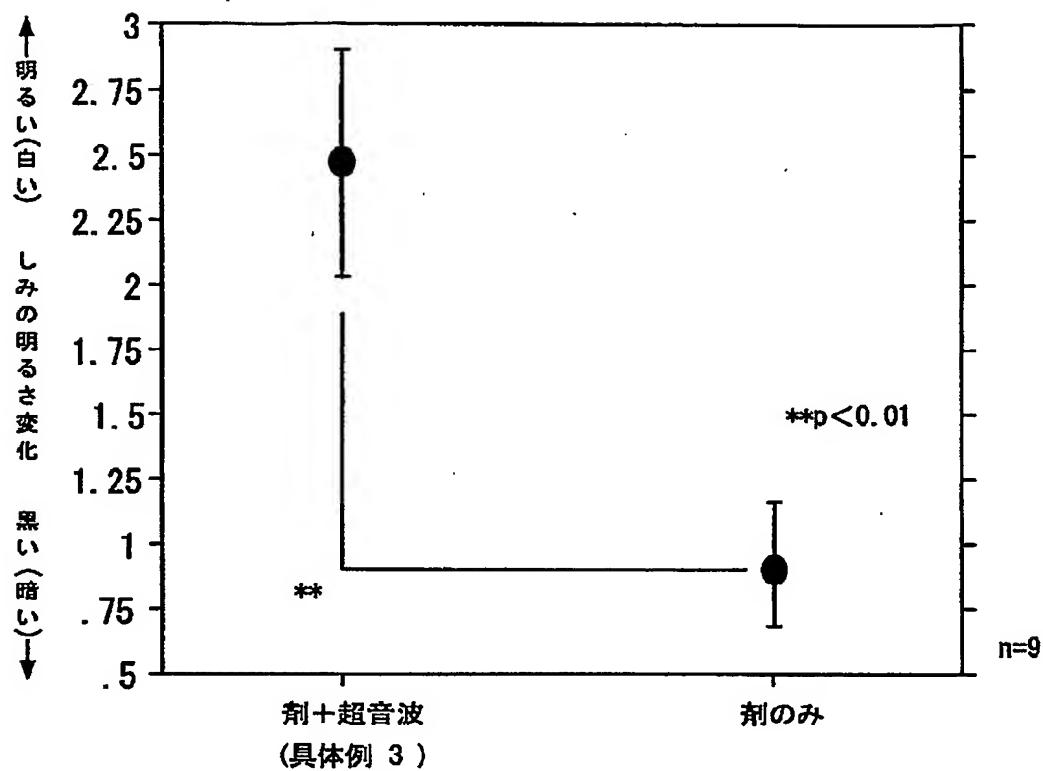
【図5】



【図6】



【図7】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 皮膚及び脂肪組織や筋肉へ剤を安全に効果的に浸透させることができ
る超音波経皮浸透装置を提供する。

【解決手段】 有効成分を含んだ剤1を経皮により生体2に浸透させるにあたつ
て、皮膚角質層の細胞間脂質を緩くするために超音波の振動を経皮により生体2
に浸透させる超音波経皮浸透装置に関する。周波数が0.5MHz以上の超音波
を発生して皮膚表面2aに照射するための制御部3と照射部4を備える。超音波
の皮膚角質層の細胞間脂質を緩くする性質と周波数による生体への作用の違いと
いう二つの特性を活かして、剤を浸透させたい部位に効果的に剤を浸透させること
ができる。

【選択図】 図1

出願人履歴情報

識別番号 [000005832]

1. 変更年月日 1990年 8月30日

[変更理由] 新規登録

住所 大阪府門真市大字門真1048番地

氏名 松下電工株式会社